

鹿児島地方の妊婦の ATLA 抗体保有状況

武 弘 道*
日 高 靖 文*

要約：鹿児島地方における妊婦の ATLA 抗体保有状況について検討した。対象は鹿児島市立病院産科を受診した妊婦 1082 名である。ATLA 抗体陽性者は 48 名、陽性率は 4.4% であった。また、陽性率は、妊婦の年齢が進むにつれて上昇していた。

見出し語：ATLA 抗体，妊婦，年齢別陽性率

研究方法：対象は昭和61年8月から63年1月に鹿児島市立病院産科を受診した妊婦のうち ATLA 抗体を検索し得た妊婦1082名である。年齢は17歳から43歳に渡っている。方法は、粒子凝集法；PA法（富士レビオ）にて抗体価16倍以上を示しかつ、酵素免疫反応；EIA法（エーザイ）にて陽性と判定されたもののみを ATLA 抗体陽性者とした。

結果：ATLA 抗体陽性者は妊婦1082名のうち 48名であり陽性率は 4.4% であった。陽性者の年齢は24歳から41歳に渡っていた。陽性者、陽

性率の年齢ごとの分布は、20歳未満では 8名中陽性者 0名陽性率 0.0%、20歳から24歳では 107名中 2名 1.9%、25歳から29歳では 443名中14名 3.2%、30歳から34歳では 399名中23名 5.8%、35歳から39歳では 112名中 7名 6.3%、40歳から43歳では13名中 2名 15.4% であった。陽性者48名値のPA抗体価は16倍から16384 倍に分布していた。平均値は、2058倍であった。

考察：鹿児島地方における妊婦の ATLA 抗体陽性率は、4.4% であった。これは当地方の成

* 鹿児島市立病院小児科

(Kagosima city hospital, Kagosima Pref.)

人の陽性率11.7%より低く、小児の陽性率0.9%より高い値であった。妊婦の年齢分布が、20～30代であることを考えると妥当な値であると考えられる。5歳ごとに年齢別陽性率を検討してみると、年齢が進むにつれてきれいにATLA陽性率は上昇していた。ATLA抗体の年齢との関係は、小児期では、ATLA抗体陽性化は3歳までにおこり、その後は陽性率は横ばいになるといわれている。楠原らの沖縄での研究もこれを裏すけている。しかしその後は年齢とともにATLA抗体価は上昇していくようである。その理由として、1) 夫婦間を中心とする異性間の感染、2) 輸血による感染、3) 世代ごとに、生活様式の変化があるため、ATLA抗体陽性率には差があり、若年者ほど低率になっている、4) 小児期に感染していても抗体陽性化しないもののうち、成人後に抗体陽性化してくるものがある、などの理由が考えられる。異性間感染だけでは抗体陽性率は2倍程度にしかなりないと考えられる。また、輸血による感染もそれほど頻度が多いとは考えられない。したがって、抗体陽性化するのに、数十年かかることあるとか、世代間格差があるなどの説が推定されるが、結論は今後の研究を待ちたい。

鹿児島地方においては、年間22000人の出産がある。妊婦の抗体陽性率は4.4%であるので、年間約1000人のATLA抗体陽性妊婦が出産することになる。これらの母子感染の予防が急務と考えられ、現在母乳を中止するという方法で介入がなされている。また、我々は今後これらのキャリアーから生まれた子のフォローを続けていく予定である。

文献：1) 野村絃一郎. 健康人の抗ATLA (adult T-cell leukemia virus associated antigen)抗体についての研究—鹿児島県の住民における血清疫学的検討および成人T細胞白血病・リンパ腫またはその他の疾患の家族における抗ATLA抗体の検討—. 医学研究, 54:750, 1984.

2) 楠原浩一, 他. 鹿児島地方における小児のHTLV-1抗体保有状況—特に輸血歴との関連について—. 日児誌, 91:2984, 1987.

3) Kusahara, K., et al. Mother-to-child transmission of Human T-cell leukemia virus type-1 (HTLV-1): A fifteen-years follow-up study in Okinawa, Japan. Int. J. Cancer, 40:755, 1987.

A b s t r a c t

The prevalence of ATLA-antibodies for pregnant women in Kagosima prefecture

Hirumichi Take

Yasufumi Hidaka

Kagosima prefecture is the most endemic area for adult T-cell leukemia (ATL) in Japan. In this study, 1082 serum specimens of pregnant women in Kagosima city hospital were tested for antibody to human T-cell leukemia virus type-1 (HTLV-1) by particle agglutination assay and by enzyme-linked immunosorbent assay. The sero-positive rate of HTLV-1 antibody in pregnant women was 4.4% (48 cases). The sero-positive rate of every 5 year-age groups was the follow ways, 0% for under 20 years old aged group, 1.9% for 20 to 24 years, 3.2% for 25 to 29 years, 5.8% for 30 to 34 years, 6.3% for 35 to 39 years, 15.4% for over 40 years, respectively. It seems that the sero-positive rate is gradually going up with aging.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:鹿児島地方における妊婦の ATLA 抗体保有状況について検討した。対象は鹿児島市立病院産科を受診した妊婦 1082 名である。ATLA 抗体陽性者は 48 名、陽性率は 4.4%であった。また、陽性率は、妊婦の年齢が進むにつれて上昇していた。